CA ARCserve Backup への組込み方法

ARCserve Backup を起動し、バックアップマネージャーより、[バックアップ(B)]→[オプション(O)]を 選択し、[実行前/後の処理]のタブを選択します。[ジョブの開始前に実行するコマンド]に、セキュ アセブン暗号化バッチコマンドを記述したバッチファイルを設定し、[終了コード(X)]をチェックし、値 を"0"に設定、[ジョブを即実行(I)]もチェックします。また、[前処理/後処理を実行するユーザ]は、 管理者権限を持ったユーザを指定して下さい。

上記設定を行うことで、バックアップが実行される前に暗号化の処理が行われ、暗号化されたファ イルがバックアップされます。

グローバル オプション ×					
Alert メディアのエクスポート 拡張 ポリューム シャドウ コピー サービス 暗号化/圧縮 バックアップ メディア 検証 再試行 操作 実行前/後の処理 エージェント オプション ジョブ ログ					
以下のオプションは、バックアップ段階でのみ使用されます。					
ジョブの開始前に実行するコマンド					
ジョブの開始前に実行するファイル/アプリケーション名を入力(E):					
iProgram Files (x86)¥INOS¥Secure7_Ver.2.0¥Batch¥暗号パッチ_20160121_142604.bat 参照(<u>B</u>)					
✓ ジョブを即実行(I)					
□ ジョノをスキッノ(豆) □ 如理線7治のアプリケーミョンの主行を7.±wブ(P)					
ジョブ開始までの待機時間 (ファイル/アブリケーションが処理を終えるために必要な時間):					
ジョブの終了後に実行するコマンド(<u>A</u>)					
ジョブの終了後に実行するファイル/アプリケーション名を入力(<u>A</u>):					
参照(<u>R</u>)					
以下の場合コマンドを実行しない:					
□ ジョフが失敗(E) □ ジョフが未元了(N) □ ジョフが元了(1)					
- 前処理/後処理を実行するユーザ					
ユーザ名(U) Administrator					
パスワード(<u>W</u>): ********					
OK(<u>O</u>) キャンセル(<u>C</u>) ヘルブ					

※上記は ARCserve Backup(r16.5)の画面です。設定画面はバージョンによって異なります。

Symantec Backup Exec への組込み方法

Backup Exec を起動し、対象となるジョブのバックアップ定義のプロパティで、バックアップの[編集 (E)]を選択します。バックアップオプションの左メニューより、[プリ/ポストコマンド]を選択し、[バック アップ前に実行するコマンドを入力(T)]に、セキュアセブン暗号化バッチコマンドを記述したバッチ ファイル名を設定して下さい。

上記設定を行うことで、バックアップが実行される前に暗号化の処理が行われ、暗号化されたファ イルがバックアップされます。

	8	バックアップ定義	のプロパティ	_ D X			
	名前(N):	週次バックアップ					
	説明(D):						
	•		浸 バックアップ				
	一部選択	済み	😑 完全	$\overline{\mathbf{O}}$			
	未選択	\odot	ジョブ名: 週次バックアップ-完全				
	ji Micro	soft SQL Server インスタンス	スケジュール: 1 週間 ごと、(金曜日)、23:	:00			
		ム状態	ストレージ: ディスクストレージ				
			保持期間: 2週間				
			ステージを追加(<u>S</u>) ▼	編集(<u>E</u>)			
	クレデン	ッシャルのテストと編集(工) 編集(E)					
	へルプ(<u>H</u>)		ОК	キャンセル			
		•					
8		バックアップオ	プション				
スケジュール							
ストレージ							
ネットワーク 通知		ハックアッフ則に美行9るコマンドを入り(1):	C:\Program Files (x86)\INOS\Se バッチ_20160121_142604.bat	ecure/_ver.2.0\Batch\暗号 ^ 、			
テスト実行		☑ プリコマンドが正しく実行された場合にのみジョブを実行する(1)					
検証	- File	バックアップ後に実行するコマンドを入力(Y):		÷			
Advanced Open Advanced Disk-	based Backup	ジョブの検証完了後にポストコマンドを実行す ジョブの検証完了後にポストコマンドを実行す ジョブの検証完了後にポストコマンドを実行す	る(<u>V</u>)				
プリ/ポストコマンド		ブリコマンドが正しく実行された場合にのみポストコマンドを実行する(U) ジョブが牛助した場合でもポストコマンドを実行する(E)					
ファイルとフォルダ							
	コマンドを実行するコンピュータ:						
		○ この Backup Exec サーバー(Q)					
		◎ バックアップ先の各サーバー(E) コマンドが完了しない場合にコマンドを主かったればる時間、コマンド車行後(C) 30 回分					
<u> へルプ(H)</u>				OK キャンセル			

※上記は Backup Exec 15 の画面です。設定画面はバージョンによって異なります。

※Backup Exec についての補足情報

Backup Exec では、「バックアップ前に実行」のコマンドが 30 分経過しても終了しなかった場合、ジョブが保留にされてしまいます。バージョン 9.x 以降では、設定画面にて上記時間を 1~300 分の 範囲で変更可能ですが、それ以前のバージョンでは設定画面自体がありません。その場合、レジ ストリを変更する事により、上記の値を変える事が可能です。レジストリの変更手順は下記の通り です。

- 1. Backup Exec を終了して下さい。
- 2. 「コントロールパネル(C)」→「サービス」を選択し、全ての Backup Exec のサービスを停止し て下さい。
- 3. スタートボタンから「ファイルを指定して実行(R)」を選択し、"REGEDIT"と入力して OK ボタン を押して下さい。
- レジストリエディタが起動しますので、以下のキーを開いて下さい。
 /HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/VERITAS/Backup Exec/Engine/Misc/
- 5. Job Pre/Post Command Timeout を開き、1~300の間で値を変更して下さい。
- 6. レジストリエディタを終了して下さい。
- 7. 「コントロールパネル(C)」→「サービス」を選択し、全ての Backup Exec のサービスを開始し て下さい。



バックアップ専用ソフトとテープ装置が無い場合のバッチ時間指定組込み方法

セキュアセブン暗号化バッチコマンドを記述したバッチファイルを作成して下さい。 暗号化バッチコマンドを自分で記述する場合は、メモ帳等のテキストエディタを起動し、バッチコマ ンド記述後、任意のファイル名を付けて保存して下さい。その際、拡張子は「.bat」にする必要があ ります。

作成したバッチファイルを、Windows のタスク機能を使用してスケジューリングします。スケジュー リング作成は、管理者権限を持ったユーザで行って下さい。 タスクスケジューリングの方法は下記の手順に従って下さい。

- 1. [コントロールパネル] → [管理ツール] → [タスク スケジューラ] を選択。
- 2. メニューの[操作(A)] → [基本タスクの作成(B)] を選択。
- 3. 作成するタスク名を入力して下さい。
- 4. [毎週(W)]を選択して下さい。
- 5. バッチファイルを実行する時刻・曜日等を指定して下さい。
- 6. [プログラムの開始(T)]を選択して下さい。
- 7. [プログラム/スクリプト(P)] で実行する暗号化バッチファイルを指定して下さい。
- 8. 以上で設定完了です。

		基本タスクの作成ウィザード
1 要約		
基本9スクの作成 トリガー 毎週 操作 プログラムの開始 完了	名前: 説明:	日時/バックアップ
	トリガー: 操作: □ 院7 院7]を	(毎週: 2016/01/21 以降毎週月曜日: 火曜日: 水曜日, 木曜日: 金曜日、23:00 (ご起動) (プログラムの開始: "C*Program Files (x86)¥INOS¥Secure7_Ver.2.0¥Batch¥暗号パッチ_20) 7] をクリックしたときに、このタスクの「プロパティ」ダイアログを開く をクリックしたときに、新しいタスクが作成され、Windows スケジュールにご追加されます。 < 戻る(B) 完了(F) キャンセル

指定した時間に指定したフォルダ(またはファイル)の暗号化が行われます。 暗号先に外付ハードディスクなどを指定しておけば、バックアップの代りになります。

※暗号化バッチコマンドについての詳細は、セキュアセブン取扱い説明書を参照して下さい。